

特別支援教育研究協力校中間報告書

1 研究のねらい

1) 研究テーマ

～自立に向けて生き生きと学習に取り組む授業づくりの工夫～

2) 研究テーマ設定の理由

本校は病弱・肢体不自由部門併設の特別支援学校で、小学部、中学部、高等部を設置している。人権尊重を基盤とし、児童生徒一人一人の病気や障害の実態に応じて創意ある教育活動を展開することにより、社会の一員として自立するための可能性を高め、社会への適応力の伸長を図ることをめざし、下記の教育目標を掲げている。

1. 健康の回復、障害に基づく種々の困難の改善・克服
2. 基礎学力の充実・向上
3. 思いやりのある豊かな心の育成

近年は、呼吸器疾患や内臓疾患は減少し、精神疾患や心身症等の児童生徒が増加するなど、病態の多様化、障害の重度・重複化が進み、在籍児童生徒の実態は大きく変化してきている。このような現状を踏まえ、本校では、多様化する児童生徒に対して教職員がチームを組んで関わり、教科学習や自立活動をはじめとして、児童生徒一人一人の課題に向き合い丁寧な指導に取り組んでいるところである。

しかしながら、学習指導に関しては、長期欠席による学習空白や年度中途の転出入、様々な不適応状況などにより基礎学力の定着、向上が困難な状況にある。また一方で、重複障害児が増加傾向にあり、児童生徒一人一人の健康状態の保持、身体機能の維持・向上などに向けた、専門的な指導の困難さに、日々直面している。そこで、外部から講師を招いたり、教員の長期研修派遣を行ったりするとともに、校内で定期的に介助法研修を実施するなど、その充実に努めているものの、十分なる共通理解、一貫した指導となりにくいのが課題である。さらに、人事異動などによる組織の変化も一貫的な指導やノウハウの連続性の妨げとなっているのも課題となっている。

このような状況と課題を受けて、

- 発達に即した一貫性のある学習指導を行うために、専門機関と連携を図ること
- 子どもの発達を正しく捉え、本校独自の段階別題材配当表や教材集等を作成し、活用すること

の2点を研究の柱として標記の研究テーマを設定し、児童生徒一人一人が生き生きと学習に取り組み、学ぶ喜びのある授業の実現を図りたいと考えた。

3) 研究テーマについて

1. 「自立」について

自立とは、「身の回りのことが一人でできること」だけと捉えるのではなく、「援助を

受けながら自己決定、自己選択すること」と捉えている。平成11年度の学習指導要領改訂においても、「児童生徒がそれぞれの障害の状態や発達段階等に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすることを意味している」とあり、「自分に必要な支援を自分で選択し、決定すること」であるとも言われている。つまり、自分で判断することや自分自身が生活の主体者になっていくことを重視しているのである。

2. 「生き生きと」について

「生き生きと」については、「本人の主体性・能動性が引き出され、より豊かに生きる姿」としてとらえた。最終的に、児童生徒が自己選択し、自己決定するセルフマネジメントを行い、自己の行動を自己の責任下で行えるような成長を私たちは望んでいる。そのためにも、学校教育においては、児童生徒の実態を的確に把握し理解して適切な支援が行われなければならない。何より「わかる喜びのある授業」を展開するため、教師一人一人の資質の向上に努めたい。

4) 研究目標

小・中・高等部が連携して系統立てた指導を行いながら、本校で活用しやすい独自の「育てたい力の表」・「大事にしたい活動の表」・「系列表」等を作成し、児童生徒にとって「わかる喜びのある授業づくり」を目指す。

2 研究内容

1) 「育てたい力の表（試案）」及び「大事にしたい活動の表（試案）」等の作成（第一年次）

第一年次には、他の専門機関との連携を図り、専門的立場からの指導を受けながら、発達を正しく捉え、「育てたい力の表（試案）」及び「大事にしたい活動の表（試案）」等を作成する。そのために、以下の取り組みを進める。

1. 大学教授等を招聘し、発達についての理論研究を深める。
2. 作業療法士等の専門家の指導を受け、遊具等の活用方法について研修し、より専門的な授業実践に努める。
3. 一人一人の児童生徒について具体的な指導法を学ぶ。（理論と実践）
4. 学習集団別に授業実践を試行（グループ授業研究）するとともに、全職員が各グループ研究の進捗状況や成果・課題等について共通理解を図る。（全体研究）

2) 「育てたい力の表（試案）」等を活用した授業実践（第二年次）

第二年次には、作成した「育てたい力の表（試案）」等を活用した授業実践を行い、専門家の指導助言を受けながら、適宜修正等を図っていく。

1. 外部から講師を招いて公開授業研究を行い、「育てたい力の表（試案）」等の信頼性を検証する。
2. 検証したことをもとに適宜修正を行い、改善を図る。

3 評価の方法

- 1) 本研究の達成状況に関わり、予め達成評価基準を設定し、成果等の状況に応じて内部評価を行う。
- 2) 研究の指導を受けている外部講師等の専門家に日常の授業実践を参観していただき、指導助言を受ける。
- 3) 公開の授業実践を行い、県内外の教職員の評価を受ける。

4 研究経過

- 1) 年間の取り組み

☆がついているものは外部にも案内し公開した。Gはグループの意。

月	日	研究グループ (G) の動向等	取組の内容等
4月	30日	全体研究会、グループ研究会	今年度の研究の取り組みと今後の予定
5月	21日	うごきG	
	23日	かんかく・造形G、ふれあい・言葉G (合同開催)、総合的な学習の時間G	寺川准教授 (発達の理論研修) ☆
6月	6日	総合的な学習の時間G	
	9日	総合的な学習の時間G	
	17日	総合的な学習の時間G	酒井教授 (理論中心、授業見学)
	25日	かんかく・造形G、ふれあい・言葉G (合同開催)、うごき・動きG	寺川准教授 (発達の理論研修) ☆
7月	22日	総合的な学習の時間G	
	30日	総合的な学習の時間G、ふれあい・言葉G、かんかく・造形G、うごき・動きG	職員研修「今、特別支援教育に求められるもの～医療・福祉の現場からの期待～」(林教授の講義) ☆
8月	1日	検査法研修会	寺川准教授 (新版K式検査結果分析)
	5日	検査法研修会 (MEPA-R・MEPA-2、WISC-3)	中四国病弱教育研究大会リハーサル
	27日	かんかく・造形G、ふれあい・言葉G (合同開催)、うごき・動きG、総合的な学習の時間G	寺川准教授 (理論研修) ☆
9月	18日	総合的な学習の時間G	
	24日	ふれあい・言葉G、かんかく・造形G うごき・動きG	
	29日	全体授業研究会 (高等部)「総合的な学習の時間」	酒井教授 ☆
10月	30日	総合的な学習の時間G、ふれあい・言葉、かんかく・造形G、うごき・動きG	寺川准教授 (授業研究会)
11月			常設遊具設置
	10日	ふれあい・言葉G、うごき・動きG	
	18日	総合的な学習の時間G	
	21日	ふれあい・言葉G うごき・動きG	坂口主幹教諭 (授業研究会) 太田教授 (授業研究会)
	28日	かんかく・造形G	
12月	2日	かんかく・造形G	

	8日	全体授業研究会（小学部）「かんかく」	寺川准教授 ☆
	24日	総合的な学習の時間G、ふれあい・言葉G、うごき・動きG	
1月	14日	うごき・動きG	
	21日	総合的な学習の時間G、ふれあい・言葉G、かんかく・造形G、うごき・動きG	太田教授（授業研究会）
	30日	うごき・動きG	
2月			常設遊具設置
	12日	全体研究会	研究集録作成

○グループ研究会における外部講師

グループ名	外部講師	全体授業研究会	回数及び時期
総合的な学習の時間	酒井朗（大妻女子大学教授）	高等部	2回（6月17日、9月30日）
ふれあい・ことば・言葉	坂口しおり（都立府中特別支援学校主幹教諭兼ST）		1回（11月21日）
かんかく・造形	寺川志奈子（鳥取大学准教授）	小学部	5回（5、6、8、10、12月）
うごき・動き	太田篤志（姫路獨協大学教授）		2回（11月21日、1月21日）

○専門性を高めるために外部講師を招聘した研修

研修名	講師	テーマ・内容
職員研修 （7月30日）	林隆（山口県立大学教授）	今、特別支援教育に求められるもの～医療・福祉からの期待～（講義、研究協議）
検査法研修 （8月1日）	寺川志奈子（鳥取大学准教授）	授業に生かせる発達検査（新版K式の分析）

2) グループ研究会

小学部から高等部まで一貫した指導を行うため、学部を解いて職員を4グループに編成して、グループ毎に理論及び授業実践を行い、研究を深めた。

	グループ名	研究テーマ
1	総合的な学習の時間	自ら考え計画し、行動できる児童・生徒をめざして
2	ふれあい・ことば・言葉	人との関わりを通して自分の思いをより豊かに表現するための授業づくりをめざして～「育てたい力の表」を活用して～
3	かんかく・造形	発達に応じた支援の工夫～「教材・教具集」や「大事にしたい活動の表」を活用して～
4	うごき・動き	人との関わりを通して身体を動かすことを楽しむ授業づくり

総合的な学習の時間グループ

1. 研究方法

総合的な学習の時間における、めざす児童生徒像を考え、小学部から高等部までの統一した視点で「育てたい力の系列表」（図表1）、「総合的な学習の時間における各学部の位置づけ表」（図表5、以下「位置づけ表」と言う。）を作成することにより、評価基準が整い、系統立てた指導を行うことができると考えた。また、「育てたい力の系列表」を活用して個々の児童生徒の学習目標を明確にし、体験的な探究活動を組み入れた授業を展開することにより、社会参加・自立に向けて実践的な力をつけることができる。「位置づけ表」（図表5）を活用しながら授業実践を行い、検証や見直しをしていくことを研究の柱としている。

2. 実践

ア 「育てたい力の系列表」（図表1）の見直し

総合的な学習の時間が始まった当初から本校独自の「育てたい力の系列表」を作成して活用していた。しかし、○1年間指導計画作成時には活用するが、その他の場面での活用方法が分からない。○2文言のとらえ方が活用する人によって異なり、使いづらい。○3平成21年度の学習指導要領改訂を機に、育てたい力の観点が変わる、などの課題があった。そこで、新しい視点（学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会との関わりに関すること）を踏まえたものに作り直し、育てたい力の視点○1～○6を考え、各段階のキーワードと6段階の評価の具体例を作成した。

イ 「位置づけ表」（図表5）の作成

「位置づけ表」の児童生徒がめざす段階と「育てたい力の系列表」の各学部が育てたい力との関連性が明確でなかった。そこで「育てたい力の系列表」の育てたい力を見直したものを「位置づけ表」に転記し、文言を統一した。

ウ 「評価表」（図表6）の作成

年間指導計画だけでは個人の変容が分かりづらく、「育てたい力の系列表」を有効に活用できない等の課題があったので、「評価表」を作成することにした。「評価表」は単元ごとに児童生徒一人一人の児童生徒のものを個別に作成し、単元目標や実態、単元ごとの育てたい力、支援、評価を記録するものである。これにより、児童生徒の変容がわかりやすく、系統立てた指導や力の積み上げが明確となった。またグループ学習を行う場合も共通理解しやすくなり、次時の学習にも生かせるようになった。

エ 授業実践

年度当初にそれぞれの学部で、単元の構想図と研究の流れの表を作成し、授業展開や内容の充実を図った。また各学習グループで「育てたい力の系列表」や「評価表」を使って、対象事例生徒（児童）を決め授業研究を行った。そうすることにより、児童生徒の発達段階の把握や目標（育てたい力）設定、支援が適切に行われているのかを検証することができるので、「育てたい力の系列表」の内容（評価具体例、支援）の見直しができると考えたからである。平成20年度は、酒井朗教授（大妻女子大学）を招聘し、6月17日に中学部・高等部単一障害学級各グループが授業公開を、9月29日に高等部単一障害学級グループが全体授業研究会を行った。授業展開や「育てたい力の系列表」、特別支援学校での総合的な学習のあり方について指導助言を得た。11月に小学部単一障害学級・中学部重複障害学級1型・単一障害学級がグループ授業研究会を行った。

3. 成果と課題

ア 「育てたい力の系列表」の案を作成することができた。修正してきたものの、使ってみると観点によっては、生徒の実態と文言が合わなかったり、教師によってキーワードの捉え方に違いがあるなどまだまだ不十分である。これらの課題から、平成21年度は事例研究を行いながら文言の見直しを行う予定である。○5○6の観点については、本校の児童生徒の社会参加や他者とのつながりをどう捉えるかを明確にし、検討していきたい。また、平成21年度は特に中学部に視点をあて、文言の意味や系統性について検討し、共通理解を図りたい。

イ 「位置づけ表」と「育てたい力の系列表」の文言を統一したことにより小学部から高等部までの系統性が見やすくなった。平成21年度は単独の表ではなく全体計画を作成し、そこに転記することとした。また、文言や系統性についてさらに検討が必要である。

ウ 「評価表」については、児童生徒一人一人の目標や育てたい力・教師の支援をじっくり考えることができ、授業づくりにも活用することができた。また生徒の学習の記録として残るので、成長した面が明確になった。しかし、評価の書き方にばらつきが見られ、生徒の課題や支援が適切かどうか明確になっていないものもあった。平成21年度は書き方の統一を図り、「育てたい力の系列表」とともに引き継ぎ資料として活用できるようにしたいと考えている。

エ 平成21年度も20年度と同様の方法で研究を深めていく。平成21年度は中学部の実践を共通の事例として、全員で話し合っていくこととする。

オ 「育てたい力の系列表」「位置づけ表」「評価表」のそれぞれを見直し、修正する過程で客観的かつ具体的に児童生徒の姿を的確に把握することができ、指導や支援が行いやすくなった。教師がねらいを意識して授業に取り組むことができた。授業研究会では、本校がめざす総合的な学習の時間の取り組みについて○1から○3のような指導助言を得ることができた。

○1 総合的な学習の時間において育てたい力の明確化を図る。

○2 社会参加や自立に向けて身に付けておきたい力の明確化を図る。

○3 ○1と○2の力と学習単元（題材）との結びつきを明確化する。

それぞれの表を活用しながら、平成21年度も課題に迫りながら、さらに研究を深めていきたい。

ふれあい・ことば・言葉グループ

1. 研究方法

ア 「育てたい力の表」（図表2）の作成

平成19年度に作成した「お話あそび」の「つけたい力の表」を見直し、検討しながら「ふれあい・ことば・言葉」における「育てたい力の表」を作成する。発達に視点をおくため、発達の特徴を明記する。

イ 発達についての理論研修（5月・6月・8月：3回実施）

寺川志奈子准教授（鳥取大学地域学部）を招聘し、発達についての理論研修をする。これをグループ全員で行うことにより、同一の視点で研究に取り組むことができる。

ウ 研究授業

「育てたい力の表」を活用した授業を展開し、協議を通して「育てたい力の表」の検証を行う。また、外部から講師として坂口しおり主幹教諭（東京都立府中養護学校）を招聘し、指導・助言を受けることにより、研究テーマに迫った授業を実践し、グループ研究を深める。

エ 「学習内容表」の増補改訂

従来から作成している「段階別題材配当表」の題材を収集し、「学習内容表」として作成した。そして、本校の自立活動における「ふれあい・ことば・言葉」の学習内容の例を増やし、見直す。

2. 実践

ア 「育てたい力の表」の作成

A) 「育てたい力の表（ふれあい・ことば・言葉）」作成上のポイントは以下の3点とした。

○1 お話あそびに限らず「ふれあい（小学部）」「ことば（中学部）」「言葉（高等部）」の学習活動全般で活用できるようにする。

○2 発達の視点に即した授業づくりが展開できるように各段階の特徴を表に明記する。

○3 生活年齢を配慮した指導に活用できるような表にする。

B) 特に○2については、寺川志奈子准教授（鳥取大学地域学部）から理論研修を受け、1（乳児期前半）2（乳児期後半）3（幼児期前期）4（幼児期中期）5（幼児期後期）の5段階に細分化し、活用しやすいものにした。

C) 表の縦軸を「発達段階」、横軸を「生活年齢」とし、用語についても、生活年齢と発達段階に応じて系統的に進むようにし、似たようなニュアンスの用語の違いや表現の仕方なども検討した。

（例）

○1 「伝える」を育てたい力の視点【コミュニケーション・社会性】の項目だけではなく【表現・表出】の項目で使ったのは、「伝える」ことを意識して「表現する」力を4段階、5段階では目指したためである。

○2 「感情」「気持ち」「思い」については、ニュアンスは似ているが、段階的に考えてこの順で記載する。なお、発達は年齢では区切れないので表中には年齢を表記していないが、参考として枠外に示した。

イ 発達についての理論研修

発達の基本的な流れを知り、発達に視点をおいた指導を行う目的で、寺川准教授から理論研修を受けた。これによって、「育てたい力の表」の発達段階を5段階に細分化し、発達段階ごとの特徴を明記することができた。また、発達の特徴を学ぶことで、学習グループ、個々の目標設定や学習の組み立て等について見直すことができた。

ウ 授業実践（グループ授業研究会）～「育てたい力の表」の活用をめざして～

作成の途中ではあったが、「育てたい力の表」を活用して、小学部と高等部の1～2段階の児童生徒を対象にした授業研究会を行った。○1発達と生活年齢に視点をおいた目標設定について、○2人との関わりを通して自分の思いを表現するための有効な支援の方法、の2点を柱に協議した後、指導助言をいただき、「育てたい力の表」については、本校の学習の指針となるように今後も話し合い活用し、修正していくことが大切であることを確認し合った。

エ 「学習内容表」の作成

従来からまとめてきた「題材配当表」を修正して「学習内容表」とし、平成20年度も継続して作成した。これは、単元ごとの学習内容を各グループでまとめたものである。これらを蓄積していくことにより、今後、指導計画を立てる際の参考になると考えた。特に活用した絵本については図書担当者との協力し、テーマごとの一覧を作成し、所在を明らかにするなど、活用しやすいように工夫した。

3. 成果と課題

ア 「つきたい力の表（お話あそび）」を見直すことにより、「育てたい力の表（ふれあい・ことば・言葉）」を作成することができた。各発達段階の特徴を表の中に明記することにより、学習グループや個別の目標設定、授業の組み立て、評価等をする際に活用しやすくなった。

イ 表の作成を進める過程で、研究グループでしっかりと話し合う機会を多くもつことができ、それぞれが児童生徒の実態や育てたい力について考え直すことができた。各学部の職員がしっかりと話し合えたことは、系統立てた指導の実践にも役立つと考える。

かんかく・造形グループ

1. 研究方法

ア 理論研修

寺川志奈子准教授（鳥取大学）を招聘し、理論研究を行った。それぞれの発達段階における姿勢、運動、認知、言語、社会性の特徴やそのとらえ方、発達の節目や課題、支援のポイント等を学べるようにした。（5月・6月・8月の年3回実施）

イ 「大事にしたい活動の表」（図表3）の作成

「発達に応じた支援の根拠になるものが必要である」という考えのもとに、新たに「大事にしたい活動の表」を作成することにした。従来の「教材・教具集」をより授業に活用しやすくすること、発達に応じたねらいや支援を明確にし、系統性やつながりを考えていくことに留意しながら作成した。

ウ 授業研究

「大事にしたい活動の表」を活用した授業を行い、その後協議することにより、「大事にしたい活動の表」の検証を行う。専門家の指導・助言を受けることにより、研究テーマに迫った授業を実践できた。

2. 実践

ア 発達についての理論研修

講義を通して、各発達段階における姿勢、運動、認知、言語、社会性の特徴やその捉え方、発達の節目や課題、支援のポイント等、発達の理論的な根拠となるものを明確にすることができた。これを「大事にしたい活動の表」の作成や、日々の授業実践に生かすようにした。

イ 「大事にしたい活動の表」の作成と活用

発達に応じた支援の根拠になるものが必要であるという考えのもとに、新たにこの「活動表」を作成することにした。従前からの「教材・教具集」は一つの資料として参考にしながら、「活動表」の作成においては、○1「教材・教具集」よりも活用しやすくすること、○2発達に応じたねらいや支援

を明確にし、系統性やつながりを考える、の2点を留意した。活動の表の作成にあたっては、グループ内で毎日の授業における工夫や疑問点等も出しながら協議を重ねた。その協議は、各学部の様子をお互いに理解していくきっかけにもなった。そして特に大切なこととして、次の2つを確認した。

◎「かんかく・造形グループ」としては、「感覚」を視覚・触覚に限らず、味覚・聴覚・嗅覚などを含めて広くとらえ、ものとかかわること、人とかかわること、ものを介して人とかかわること、人を介してものとかかわることをねらいたい。そのことをふまえて、表を検討する。

◎「大事にしたい活動の表」と「教材・教具集」をもとに、各学部が授業実践をする。実践する中で気付くことを大切にしながら、発達に応じた支援や大事なことを見直し、より実践に活かせる表の完成を目指す。

ウ 授業実践

10月30日、寺川准教授を招き、中学部と高等部が行った授業のビデオを視聴後、研究協議を行った。12月11日にも同准教授を招き、全体研究会として小学部の授業研究会を行った。授業の後、4つのグループに分かれて、主に発達に応じた支援の工夫と「大事にしたい活動の表」について協議し、助言を得た。

3. 成果と課題

ア 表を作る過程で「かんかく・造形」の学習が、今までは作品作りが主な目的になっていたことを反省し、自立活動の視点で捉えることや感覚を広く捉えることが確認できた。

イ 「大事にしたい活動の表」は、作成していく過程で「教師の支援の視点」がより豊かになり、発達の視点で整理することができた。また、平成21年度はこの表の名称を「大事にしたい活動と教師の支援～発達の視点を大切に～」に変更することとし、改訂を加えながら、より内容のあるものにしていきたい。

うごき・動きグループ

1. 研究方法

ア 「発達段階別学習素材活用表」の作成

平成19年度に作成した「学習内容表」は、学習素材別に分類しまとめている。この「学習内容表」を活用しやすくするため、発達段階と関連づけた「うごき」の学習における「発達段階別学習素材活用表」を作成する。

イ 作業療法士の指導

谷口作業療法士（鳥取療育園）に指導を仰ぎ、児童生徒の指導方法、遊具の使い方等について研修を深める。

ウ 研究授業

「発達段階別学習素材活用表」を活用した授業を展開し協議することにより、その検証を行うことができる。また、外部からの講師として太田篤志教授（姫路獨協大学）を招き、指導・助言を受けることにより、研究テーマに迫った授業づくりを進め、研究を深める。

エ 自立活動室の遊具設定

通常の学習時間ではなかなか設定しにくい大型器具や遊具を設置し、ダイナミックな動きが学習できる環境を設定する。

オ 「学習内容表」の作成

平成19年度より作成している「学習内容表」に身体機能を加味した支援方法（作業療法士の指導による）を追加する。

2. 実践

ア 「発達段階別学習素材活用表」（図表4）の作成

身体の発達の段階をMEPA-2、MEPA-R等を元にまとめ、加えて身体機能を6段階に区分（筋緊張の有無もあり）し、自立活動のねらいごとに学習素材を一覧にまとめた。これは、「学習内容表」と合わせて使用するものと考えており、それぞれの発達段階・身体機能・ねらいに応じた遊具の活用方法や支援のポイントを参考にしている。これらはその発達段階における一事例であり、遊具の活用方法は幾通りも考えうると共通理解している。また、「人間関係の形成」「コミュニケーション」のねらいにせまる学習活動については、資料を作成中である。今年度は「人との関わり」を意識した活動の例としてまとめたが、各発達段階の区分の方法や内容について今後の検討が必要である。

イ 作業療法士の指導

児童生徒の身体発達や身体機能に応じた適切な遊具の使い方や支援の方法について、うごきの学習を中心に授業の中で指導助言を受けた。学部により回数は異なるが、各学習グループが月に一度ずつ実施した。毎回、使用遊具を絞り、運動のねらいを明確にし、実際に指導を受けたことで、身体発達や身体機能に応じた具体的な支援方法を知ることができた。

ウ 授業実践（グループ授業研究会）

研究テーマ「人との関わりを通して身体を動かすことを楽しむ授業づくり」にせまるため、各学部1回ずつ授業研究会を行った。共通して○1人との関わりを通して自発的な動きを引き出す支援について、○2各個人の目標を達成するための支援と評価、の2点を柱に協議を行い、第2回、第3回は、太田篤志教授（姫路獨協大学）より指導助言を得た。

エ 「学習内容表」増補改訂

平成19年度に作成した「学習内容表」を太田篤志教授（姫路獨協大学）と谷口作業療法士（鳥取療育園）より活用と充実のための助言を受けた。谷口作業療法士には学習の中で直接指導を受け、学習素材ごとに児童生徒の身体機能に応じた支援方法としてまとめ、これらを「学習内容表」に追加した。

3. 成果と課題

ア 従前の「学習内容表」をより充実させ、「発達段階別学習素材活用表」を作成することができた。身体の発達の特徴、身体機能の段階や特徴を明記することにより、身体発達のすじみちを知る資料となった。

イ 自立活動の区分によるねらいと発達や機能に応じた遊具を明記することにより「学習内容表」と合わせて活用しやすいものとなった。

ウ 人との関わりを通して身体を動かすことを楽しむ活動については、児童生徒のコミュニケーションの発達段階に視点を置いた「人との関わりを意識した活動例」の表を作成中である。

エ 平成21年度は、「学習内容表」「発達段階別学習素材活用表」「人との関わりを意識した活動例」のいずれも、目標設定や授業の計画、評価等をする際に十分に活用していきたい。

5 成果と課題

(成果)

ア 実践の整理と方向の明確化

校内研究会に外部から多くの専門家を招き指導を受けたことにより今までの実践が整理され、進む方向が明確になった。

- ・ 発達や総合的な学習の理論を深めることができた。
- ・ 授業実践をとおして指導助言を受けることができ、児童生徒一人一人に対する具体的な支援の方法が学べた。
- ・ 「育てたい力の表」や「大事にしたい活動の表」等についても指導を受け、さらに充実した表の作成を行うことができた。

イ 校内研修会の充実

- ・ 職員の資質の向上を図るための研修会も計画的に実施し外部にも公開し、地域のセンター的役割も同時に果たすことができた。
- ・ 検査法の研修会を行い、児童の実態を客観的に捉え、個々の目標の設定や授業づくりの参考になるようにした。

(課題)

- ・ 各グループ研究は充実したが、全職員の共通理解が不十分であった。校内の電子掲示板や回覧等を活用して各グループ研究の進捗状況を報告するように努めたが、まだまだ不十分で今後の課題である。
- ・ 教員は属している研究グループ以外の授業も受け持つことになるので、他グループの研究の成果の共有化を図り、日々の実践につながるよう、研究体制を検討したい。

6 今後の展望

「子どもたちが自立に向けて生き生きと学習に取り組む授業作りの工夫」という大きなテーマのもと、小・中・高等部の一貫した教育に着目し研究を進めてきた。

本研究で、「育てたい力の表」、「大事にしたい表」、「学習内容表」、「系列表」など、本校独自の基準の作成を試みているが、多様化している本校の児童生徒にぴったりと当てはまり、教育支援の指針となるものとなるよう、今後もよりよいものを求めて改善していきたい。

しかし、日々の実践の中で、教職員個々の主観ではなく共通の基準をもって児童生徒の成長を見つめていくことは大変重要である。一人一人の生涯をみつめ、多面的・総合的な理解と支援を行なう重要性を常に感じている。そのためにも、教職員の共通理解のもと、一貫した指導を行っていきたい。特に重複障害学級の児童生徒は12年間という長い間、本校で教育を受け、社会に巣立っていく。この12年間の学校生活を、さらに充実したものとすることは、本校の使命である。今後さらに、児童生徒が生き生きと取り組む授業を行い、充実した学校生活につなげていきたい。

<添付図表等>

図表1 「育てたい力の系列表」

図表2 「育てたい力の表」

図表3 「大事にしたい活動の表」

図表4 「発達段階別学習素材活用表」

図表5 「総合的な学習の時間における各学部の位置づけ」

図表6 「評価表」

(図表 1)

平成 20 年度「育てたい力の系列表」

テーマ		自ら考え計画し、行動できる児童・生徒をめざして					
学部		小学部		中学部		高等部	
各学部で つけたい力		<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜだろう」と気づく感性と探究心(ア) ・自分で考え計画して、前向きに粘り強く取り組もうする力(イ)(ウ) ・基礎学力とそれを活用する力(表現・受容・発信)(イ) 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分で疑問をもち、課題を見つけ出し、解決できるものを設定することができる力(ア) ・必要な情報を収集・選択し、自分なりの工夫を図りながら見通しを持って意欲的に解決する力。(イ) ・集団の中で、自主的、協力的に取り組もうとする力(ウ) ・将来の生活する姿をえがいて実現に向けて自己の生き方を考える力(ウ) 		<ul style="list-style-type: none"> ・事実に基づいて自分の考えを組み立てようとする力(ア) ・情報を収集・選択し活動を振り返り方向を修正する力(イ) ・仲間と話し合い計画立案しようとする力(イ)(ウ) ・さまざまな方法で他者にわかりやすく伝える力(イ)(ウ) ・自己のあり方・生き方を考える力(ウ) 	
評価の観点		ア:課題設定(・関心をもつ力 ・疑問をもつ力 ・課題を設定する力 ・見通しをもって解決方法を組み立てる力) イ:問題解決(・学習スキル能力《情報収集・情報選択・情報分析・情報考察・まとめる・表現する・振り返る・実行する・活用する》 ・意欲的に取り組む力《集中力・根気強く取り組む力》) ウ:人とかかわる力・自己の生き方(・コミュニケーション《自己の思いや考えを伝える力、他者の考えを受け入れる力、お互いに思いや考えを伝え合う力、協力する》) (・自分を客観的に見る力《自己を知り、自己の生き方を考える力 自己の生き方を考え、主体的に行動できる力 自己の生き方を振り返る力 自己のあり方を考える力》)					
段階		1	2	3	4	5	6
評価の観点とその 具体例	ア 課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の生活や五感を使った活動に取り組む中で、自分や自分の周りの事象に関心を持つ。 ・ 支援を受けながら自分で考え計画し、見通しをもって活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べ学習や話し合い活動に取り組む中で、自分や自分の周りの事象に関心を持つとともに、自信を持って活動する。 ・ 自分で考え計画し、責任を持って活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校やその周辺地域における様々な活動を知り、その中から疑問を感じ、課題を設定することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の生活圏で出会う人や社会と自分の立場とつながりを意識し、自ら主体的に課題を設定することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会と自分とのつながりを意識して、主体的に課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後の社会と自分とのつながりを意識して主体的に課題を設定する。
	イ 問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五感を使って必要な情報を集めて、自分の考えを深める。 ・ 情報や資料を分類・整理する手順や方法を知ってまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の経験や体験活動を通して、自ら調べたり資料を集めたりして考えを深める。 ・ 収集した資料を活用しながら問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験的な活動を通して、自分なりの方法に気付きながら、情報を収集・選択して問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にとって使いやすい手段や情報機器を利用して、情報を収集・選択して問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な手段や情報機器を活用して、必要な情報を収集し適切に選択して問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を収集するための手段を自ら考え、積極的に情報を収集し適切に選択して問題を解決する。
	ウ 人とかかわる力 自己の生き方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの感じ方や考えを聞く中で、様々な見方や考え方があることを知る。 ・ 他の人によりよく伝えるための様々な発表の方法を知り、自分の感じ方や考えを自信をもって発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちと協力して調べたり話し合ったりする中で、自分や友だちのよさにも気づき、認め合う。 ・ 自分の考えや意見を、他の人によりよく伝えるように発表の仕方を工夫しながら、自分の考えを自信をもって発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決に向けて、人と場を共有し、こまった時に必要な援助を依頼できる。 ・ 学習で感じたことなど自己評価し、発表する。 ・ 他者の意見を自分と照らし合わせながら自分のよさに気づき、様々な生き方があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決に向けて必要な援助を依頼したり仲間と協力したりしながら、集団の中で自分のよさを発揮しようとするとともに、他者のよさも認めることができる。 ・ 自己評価した成果と課題を分かりやすく伝える手段を選んで発表する。 ・ 他者の体験を聞き、様々な生き方があることを知り、自分の生活に生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決に向けて、仲間と協力したり、自ら様々な人とかかわったりする中で、自己の思いや考えを表現するとともに、相手を理解しようとする態度を身につける。 ・ 自己評価した成果と課題を分かりやすく伝える手段を選んで発表するとともに、様々な人の体験や生き方に共感し、自らと重ね合わせて自分はどうするか目標を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決に向けて仲間と協力し、自ら社会の様々な人とかかわる中で、自己の思いや考えを伝え合うとともに、互いを理解し協力しようとする。 ・ 自己評価した成果と課題について発表するとともに、将来の社会参加を意識して様々な人の体験や生き方を自分の生活に生かし、卒業後の生活や進路に向けて主体的に行動する。

(図表 2)










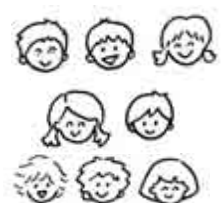

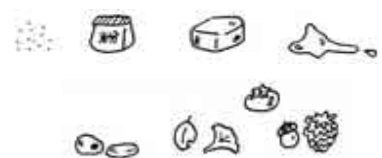
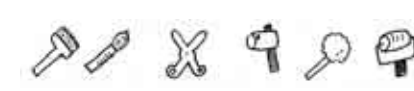
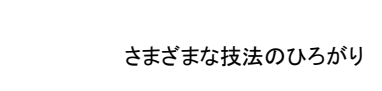
育てたい力(ふれあい・ことば・言葉)

段階	発達の特徴	小学部	中学部	高等部
1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身体の中に微笑みの原因を見いだして微笑することがある。 他者からの働きかけに対して微笑する。 自分から他者に微笑みかける。 微笑や発声により他者とコミュニケーションをとろうとする。 快と不快が分化し、表出する。 自発的に身体を動かして、刺激を受け取ろうとする。 2つの刺激を一度に捉えることができる。 違いがわかり始める。(鈴とベルの音、水と砂糖水、身体で感じる揺れの違い、身近な人とその他の人) 特定の人に対して好意を抱き、微笑みかけたりするなどの自発的な働きかけが見られる。 色の分化が始まる。(赤や黄色などはっきりした色がよい) 欲しいものに手が出るようになる。 2つのものを見比べる。 きれいな音の楽器を好み、リズムを感じるができる。 喃語が出る。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> お話をしたり聞いたりして楽しい雰囲気を感じ取る。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の快・不快を表情や発声、身体の動きなどで表現する。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族や担任など身近な人の働きかけに対して応える。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 好みのお話をしたり聞いたりして楽しむ。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の快・不快を表情や発声、身体の動きなどではっきりと表現する。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な人の働きかけに対して応える。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろなお話をしたり聞いたりして楽しむ。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の快・不快を表情や発声、身体の動きなどではっきりと表現する。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな人の働きかけに対して応える。
2	<ul style="list-style-type: none"> 2つのものを見比べて選択することができる。 ものを目と手と口で確かめて、そのものの性質を知ろうとする。 物事の変化への不安が強まる。→初めて会うものへの心理的抵抗が大きい。 目的をもってものを選択する。 「選んでから〇〇する」という見通しとともに選択できるようになる。 見えないものの世界に興味をもつ。→物の永続性の理解、探索活動への興味、期待して待つ力 心の支え(お母さんなど親しい人)の存在があればいろいろなものに挑戦しようとする。 他者とのかかわりを強く求める。 相手に合わせるような本当の意味での模倣が可能になる。 自分の気持ちを他者に伝えようとする。 自分のしたことを他者から認められることに喜びを感じる。 名前を呼ばれたことがわかり、返事をする。(他者が呼ばれても返事をする) 発語、一語文が見られる。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味をもってお話をしたり聞いたりする。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の感情を表情や発声、身体の動きなどで表現する。 簡単な言葉や動作を模倣する。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族や教師など身近な人の働きかけに応じて、自分の気持ちを伝える。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味をもってお話を聞き、期待感をもつ。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の感情を表情や発声、身体の動きなどではっきりと表現する。 お話に出てくる言葉や動作を模倣する。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な人の働きかけに応じて、自分の気持ちを伝える。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味をもってお話を聞き、期待感をもつ。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の感情を表情や発声、身体の動きなどではっきりと表現する。 お話に出てくる言葉や動作を模倣する。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな人の働きかけに応じて、自分の気持ちを伝える。
3	<ul style="list-style-type: none"> 自分でできた喜びを感じ、他者からほめられることに重要性を感じる。 「〇〇してから〇〇する」という見通しの力をもち、目前にないことをイメージする力がつく。 自分に役割(係りの仕事のようなもの)があることを好む。・「友だちと一緒に〇〇する」ということに喜びを感じる。・友だちの区別ができる。 自分だけではなく友だちにも名前があることを知る。(自分の名前がわかり、意識して返事をする)・自分の意図が他者に伝わらないときにはだだをこねる。 失敗の事実を受け止め、さらに挑戦しようとする。 自分の力をコントロールしながら操作し、発展させる力が育つ。 生活経験に根ざした遊びを展開する。→読んでもらってうれしい本が「いただきます」「おふろでちゃぶちやぶ」「みんなうんち」など生活の中で経験したのあるものを好む。また、顔を洗うまねをしたり、ご飯を食べるまねをしたりしながら、遊びを展開できるようになる。(つもり遊び)・自分のものをはっきりと意識する所有関係の認識をもち始める。 友だちとの具体的な楽しい経験をしながら友だちとの関係を深め、それを求める。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な言葉や好きな絵本がわかり、見通しをもって聞く。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを発声や言葉、身体の動きなどで表現する。 お話に出てくる言葉や動作を模倣する。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族や教師とのやりとりを楽しむ。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> お話のあらすじがわかり、楽しみながら聞く。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを短い言葉で表現する。 お話に出てくる言葉や動作を理解し、模倣する。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師や友だちとのやりとりを楽しむ。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> お話のあらすじがわかり、期待感をもって聞く。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや経験を自分なりの言葉で表現する。 お話に出てくる言葉や動作を理解し、模倣する。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな人とのやりとりを楽しむ。
4	<ul style="list-style-type: none"> 「大きいー小さい」「多いー少ない」などの対比的な概念をことばによって弁別できる。 「できたかーできないか」「これでいいのかーこれではいけないのか」という評価に過敏になり、相手の目や表情がとて気になる。 「葉っぱの上に砂を乗せて、叩き、カレーライスを作る」ように何か具体的にイメージをもって遊ぶ。(みたて・つもり)家庭生活でそれぞれが経験していることが土台となり、イメージを共有し合う中で、一緒の世界をつくれるようになってくる。 自分のことは自分でできる喜び、おとなの仕事もできる喜びがふくらんでいき、自分への信頼を大きくしていく。 「おいしいねえ」「きれいなお花だねえ」などと言ひ合える(共感)人との関係の中で、形容詞の心地よい響きを感じるようになる。 自分の心の中の感情を表すことばを知っていく。 大きい自分を求めてやまない心が高まり、そうならない自分との間で悩み、葛藤し、恥ずかしそうな顔をしたりうつむいたりしてしまう。 「賢くなった自分」「より良い自分」を選びとりたい願いから、我慢する。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> お話の展開がおおよそわかり、期待感をもって聞く。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを発声や言葉、身体の動きなどで伝える。 お話に出てくる言葉や動作を見通しをもって模倣する。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師や友だちとのかかわりややりとりを楽しむ。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> お話の展開がわかり、期待感をもって聞く。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを短い文で伝える。 お話の中で役割を演じる。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊びやごっこ遊びを通して、教師や友だちとやりとりをする。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> お話の展開がわかり、見通しをもって聞く。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや経験を短い文で伝える。 登場人物になり、役割を演じる。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 劇遊びやごっこ遊びを通して、友だちや教師とやりとりをする。
5	<ul style="list-style-type: none"> 「恥ずかしいけど、頑張らなくちゃ」のように自らを励まし、自分をコントロールをしようとする。(自制心の力) 自分の今の力では簡単すぎると思えるほどの課題では、わざと逆の答えを示して強がってみせる。 「自分で最後までしたい」「自分で生活をこなせる」ことを尊重してほしい。 どんな未熟な表現であっても、自らの経験をことばで表現しようとする。 頭の中で思いをめぐらし友だちとイメージを交わしながら、創造の世界を広げる。 心の中で考える力(内面的な思考)が確かならってくる。 一定のまとまりをもった表現の力が登場してくる。行動する前に計画する力、表現する前に表現したいことを考える力が生まれてくる。 友だちやおとなをモデルとしながら、「こうありたい自分」に近づこうとする。 「一番小さい」「少し大きい」などさまざまな「小」や「大」があることを認識。中間の世界もとらえられるようになり、「だんだん大きく」「小・中・大」などの認識と思考を獲得する。(系列化) 【「昨日」「今日」「明日」】【「朝」「昼」「夜」】【「去年」「今年」「来年」】 心の中で筋道立てて考え、表現する力(文脈形成力)が獲得され始める(「書きことば」の土台)。ていねいにわかりやすく伝えようとする。 自分を外から見たらどうなるのかを、自分が見ることのできる他者の姿から、自分のそれを類推する力の獲得。自分と他者は「違っても同じ」という新しい思考の獲得。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> お話の内容やおもしろさがわかる。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちを意識しながら、自分の気持ちを言葉などで伝える。 お話の中で役割を演じる。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単なルールがわかり教師や友だちとゲームを楽しむ。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> お話の内容を理解する。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筋道をたてて話をする。 登場人物になり、役割を演じる。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒にルールを決めるなど話し合い活動を行う。 	<p>【受容・認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> お話の内容を理解し、登場人物の気持ちわかる。 <p>【表現・表出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文脈のある話をする。 お話を参考にしながら、自分なりに役割を演じる。 <p>【コミュニケーション・社会性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師や友だちと一緒にルールを決めるなど話し合い活動を行う。

注) 1 段階(乳児期前半) 2 段階(乳児期後半) 3 段階(幼児期前期) 4 段階(幼児期中期) 5 段階(幼児期後期)

(図表3)

かんかく・造形グループ 平成20年度 大事にしたい活動と教師の支援～発達の視点を大切に～

		(0:0~0:4)	(0:4~0:10)	(0:10~1:6)	(1:6~2:0)	(2:0~3:6)	(3:6~5:6)					
発達段階のポイント	姿勢	素材を知る・知り分ける		ものに動きかけ、変化を楽しむ		活動の痕跡を距離を置いて眺め、楽しんだり意味づけしたりする						
	手指	イメージを持って素材を操作する		（造形表現活動の始まり）								
	目											
	対人関係・自我											
	環境視											
生理的微笑												
大事にしたい活動	<ul style="list-style-type: none"> 安心・信頼できる大人と一緒に心地よい感覚をたくさん味わう。 いろいろな種類の感覚をたっぷり味わう。 		<ul style="list-style-type: none"> 心の支えとなる大人と一緒に素材に触れ、素材の違いを知り分け、好きな素材を思う存分味わう。 		<ul style="list-style-type: none"> 素材とかかわる中で「こうしたい」「やってみよう」という思いを大人に伝える。 「大人のようにしてみよう」「〇〇で△△したい」などの思いを持って素材に関わる。 		<ul style="list-style-type: none"> 大人との楽しいやり取りから発想を広げ、活動する。 過去の経験によるイメージをもとに見通しを持って活動する。 		<ul style="list-style-type: none"> 作ったもので大人とのごっこ遊びを通して、自分の思いがしっかり受けとめられていると感じる。 完成のイメージを持って試行錯誤しながら粘り強く取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> 作ったもので友だちとの会話やごっこ遊びを通して楽しむ。 「〇〇よりも、△△しよう」など自分が決めた自分の価値で活動する。 	
支援が方向性	<ul style="list-style-type: none"> 安心・リラックスして取り組むことのできる環境づくり・場の設定をする。 子どもがリラックスできる楽な姿勢を工夫する。 何がどのように触れるのか、触れる前に見せて伝える。 心地よい刺激としてとらえられる素材を選ぶ。 弱い刺激からはじめる（少しずつ強く）。 身体の末端から中心へ刺激を与えるようにする。 刺激に集中できるように一度にたくさんの刺激をいれない。 季節に応じた素材を用意する。 繰り返して経験するようにする。 表情の変化を見つける・うけとめる。 ゆっくりと動かして子どもが捕らえやすいように提示する。 		<ul style="list-style-type: none"> 2種類以上の素材を用意する。 自分の動きに対してすぐに反応があるようなもの（音がする、形がかわる等）、興味をそそるようなものを提示する。 「もう一回!」「もっと!」の気持ちをひきだせるような楽しい素材を用意する。 		<ul style="list-style-type: none"> 活動や道具への憧れの気持ちを高められるよう教師が見せる。 「～だねえ」「～みたいだねえ」等共感の声をかける。 自分のもの（友達のもの）をはっきりさせる。 要求にすぐ応じるようにする。 活動のイメージがわかりやすいよう教師が手本を示す。 繰り返して経験することで、見通しや期待感が高まるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 様々な素材や道具や技法に出会えるようにする。 「どっち」「次は」等と声をかけ、自己決定、選択できる機会を設ける。 活動の手順を示し、見通しを持って取り組めるようにする。 今までの経験や知っていることとイメージを結びつけられるように、思いを聞き取りイメージを膨らませる。 経験や気持ちを表現する豊かな言葉かけをする。 		<ul style="list-style-type: none"> 形が自由になり、いろいろな使い方ができる素材を用意する。 ごっこ遊びの豊かな展開を通してイメージを膨らませながら素材に向き合えるようにする。 気持ちを引き出し、言葉を膨らませる。表現を受けとめ、認める。共感、賞賛の声をかける。 やり遂げた喜びを分かち合い、達成感・満足感をもてるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 表現したいことを引き出し、発想を広げる。 試行錯誤を重ねる行為を賞賛し、活動への意欲につなげる。 さまざまな素材、道具を準備し、選択できる環境を整える。いろいろな技法に挑戦できるように準備する。 写真やビデオや実物を見たりして、イメージをひろげる。 	
★印は本校の児童生徒の特徴に対応する支援	<ul style="list-style-type: none"> ★感覚刺激の入力が苦手な子どもへは好きな感覚や入力しやすい身体の部位を中心に進める。 ★働きかけを嫌がって、手を引き込んでしまったときは、子どもの気持ちを尊重して無理やりにはやらず、一度働きかけの手を緩める。 ★嫌がったときは時間を空けて、別の刺激とともに入力して、何回か触れる機会を持つ。 		<ul style="list-style-type: none"> ★得意な感覚を中心にさまざまな感覚に働きかけることで、いろいろな感覚がより活発に働くようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ★道具や素材を注視しやすいところ、手や足の届く範囲に設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ★道具が使いやすくなるように、補助具を工夫する。 ★素材や道具によって、活動しやすいような場の設定、姿勢を工夫する。 					
		<p>安心できる特定の人との関わり</p> 		<p>身近な人、友だちとの関わり</p> 		<p>友だちとの関わりひろがり</p> 		<p>いろいろな人たちとの関わり</p> 				
		<p>心地よさ 快不快</p> <p>さまざまな感覚のひろがり</p> 		<p>さまざまな素材のひろがり</p> 		<p>さまざまな道具のひろがり</p> 		<p>さまざまな技法のひろがり</p> 				

出典：田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断1乳児期前半』『子どもの発達と診断2乳児期後半』『子どもの発達と診断3幼児期Ⅰ』『子どもの発達と診断4幼児期Ⅱ』『子どもの発達と診断5幼児期Ⅲ』『1歳児の発達診断入門』大月書店
 白石正久『発達の扉・上』かもがわ出版 三木裕和・原田文孝・河南勝・白石正久『重症児の心に迫る授業作り』かもがわ出版 細川富夫『重症児の発達と指導』全障研出版部
 渡部昭男・寺川志奈子監修『「自分作り」を支援する学校—「生活を楽しむ子」を目指して』明治図書 心理科学研究会編『育ちあう乳幼児心理学』有斐閣 梅沢啓一『乳幼児期の造形 感性の発達にあった表現活動』

	目と手の協応動作	電動 60	電動 60	電動 60	電動 60	電動 60	電動 60	電動 60	電動 60					
	身体像の形成	トラ 1 エア 3	トラ 1 エア 3 バレ 49	トラ 1 エア 3 バレ 48,49	トラ 1 エア 3 ハン 12 バレ 48,49	エア 3 カラ 46 バレ 48,49	エア 3 カラ 46 バレ 48,49							
	運動企画					バレ 48	バレ 48			オー16	オー16	オー16 すべ 25 ろく 39	オー16 すべ 25 ろく 39	
身体 の 動き	姿勢保持	エア 3,4 バラ 22 台車 34	エア 3,4 バラ 22 台車 34	エア 3,4 ユニ 6 バラ 22 台車 34	エア 3,4 ユニ 6,7 バラ 22 台車 34	エア 3,4 ユニ 6 オー17 ボード 24 回転 27	エア 3,4 ユニ 6 オー17 ボード 24	エア 4 ボー24 ボール 63 シー 62	ボー24	ユニ 5,7 バラ 23	ユニ 5 バラ 23	バラ 23 すべ 25	バラ 23 すべ 25	
	身体動作	スト 28 ボーリ 29 バレ 48 プー53 体リ 57 体ク 58	スト 28 ボーリ 29 ボす 37 バレ 48,49 プー53 体リ 57 体ク 58	チュ 20 スト 28 ボーリ 29 三角 43 ロー47 プー51,53 体リ 57 体ク 58	スト 28 ボーリ 29 ボす 37 三角 43,44 プー51,53 体リ 57 体ク 58	ユニ 7 バラ 23 回転 27 TA45 ロー47 バレ 49 プー51,53 体リ 57 体ク 58 風船 63	バラ 23 ボす 37 バレ 49 プー51,53 体リ 57 体ク 58 風船 63	エア 4 ユニ 7 プー51 体リ 57 体ク 58 風船 63	プー51,55 体リ 57 体ク 58 風船 63	プー51 体リ 57 体ク 58 風船 63	プー51 体リ 57 体ク 58 風船 63	プー51 体リ 57 体ク 58 風船 63	プー51 体リ 57 体ク 58 風船 63	
	移動	電動 60	電動 60	三角 41,42 電動 60	三角 41,42,44 電動 60	電動 60 車 60	電動 60	電動 60	電動 60					
	持久力	トラ 1	トラ 1	トラ 1	トラ 1	トラ 1	トラ 1	トラ 1	トラ 1	トラ 1				
	筋力向上	ウォ 59	ウォ 59	ウォ 59	ウォ 59	ボディ 11 ボル 13 ウォ 59	ボル 13 スク 31 ウォ 59	ボル 13 ウォ 59	ボル 13 ウォ 59	ボル 13 スク 31	ボル 13 スク 31	ボル 13 スク 31	ボル 13 スク 31 ろく 39	ボル 13 スク 31 ろく 39

*人間関係の形成・コミュニケーションは、別紙資料（作成中）。

*省略している学習素材

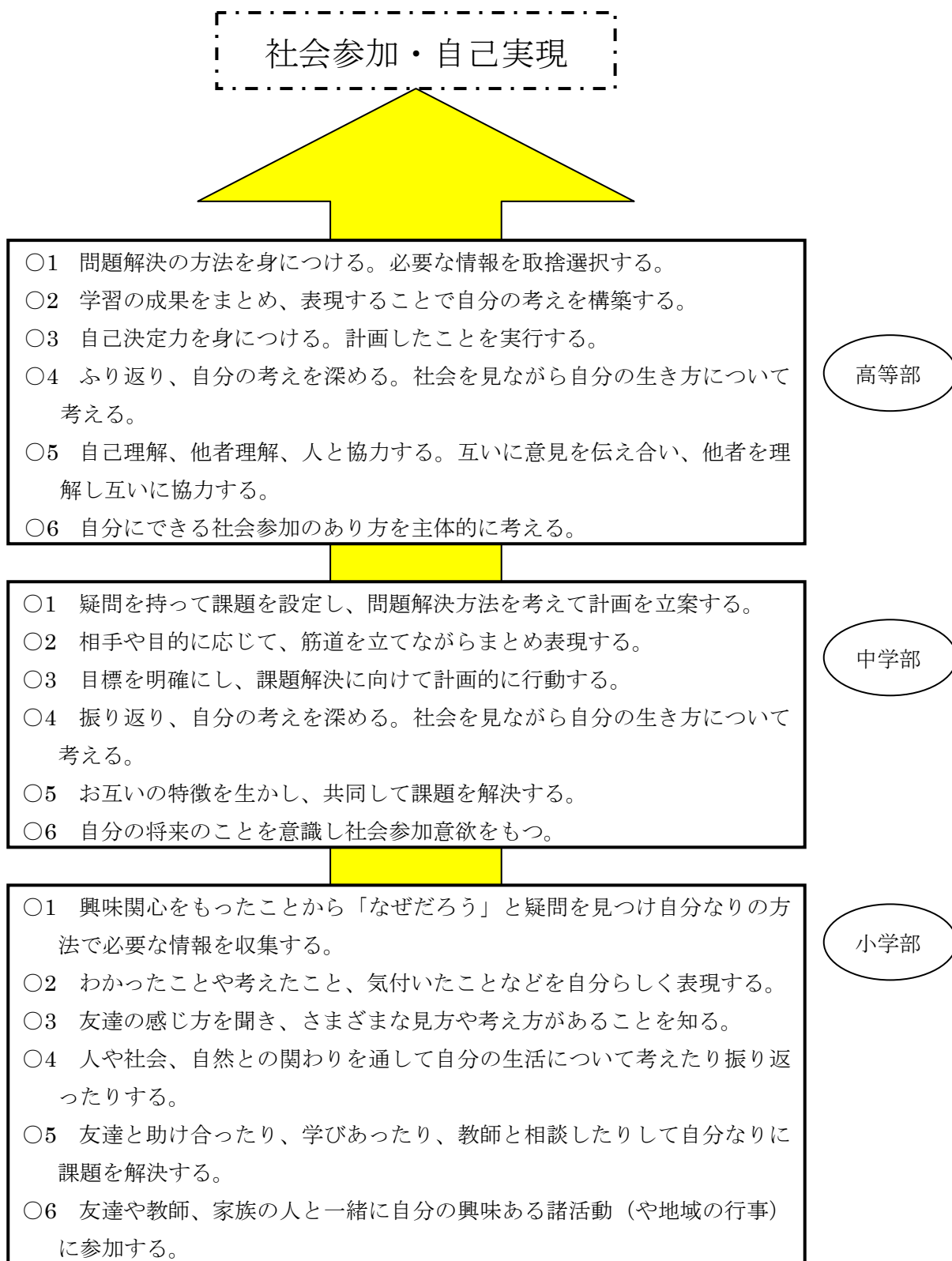
足湯・・・足湯器、	ウォ・・・ウォーカー、	エア・・・エアートランポリン、	エバ・・・エバーマット、	オー・・・オーシャンスイング、
回転・・・回転盤、	カラ・・・カラートンネル、	車・・・車椅子、	三角・・・三角マット、	シー・・・シーツブランコ、
スク・・・スクーターボード、	スト・・・ストラックアウト、	すべ・・・すべり台、	台車・・・台車	体ク・・・クッキング体操、
体ふ・・・ふれあい体操、	体リ・・・リマックⅡ体操、	TA・・・TAMAIRE、	チュ・・・チューブスイング、	電動・・・電動車椅子、
トラ・・・トランポリン、	バラ・・・バランスボード、	バレ・・・バレレルロール、	ハン・・・ハンモック、	プレ・・・プレイクッション、
プー・・・プール、	ボす・・・ボールすべり、	ボディ・・・ボディボール、	ボード・・・ボードトレーナー、	ボプ・・・ボールプール、
ボル・・・ボルスタースイング、	ボーリ・・・ボーリングピン、	ボール・・・ボール、	ユニ・・・ユニジャンプ、	ろく・・・ろくぼく、
ロー・・・ロープ、				

*数字は、学習内容表のページ数。□囲みの数字は、追記ページ数。

<参考資料>小林芳文編『MEPA-II 感覚運動発達アセスメント（マニュアル）』 『発達支援ステップガイド MEPA-R 実践プログラム』 『乳幼児と障害児の発達指導ステップガイド』
長崎自立活動研究会編『肢体不自由児の学習内容表』 「大島分類」改訂大島分類横地案

(図表 5)

総合的な学習の時間における各学部の位置づけ



(図表 6-1)

平成 20 年度 総合的な学習「評価表」 『』 平成 20 年〇月～〇月 記入者

部 年	単 元 目 標		実 態	
学習内容	観点別の育てたい力		支援	評価
・			・	・
・				
・				
・				
・				

(図表 6-2)

平成 20 年度 総合的な学習「評価表」(例)

『身近なエコ鳥取のエコを見つけよう』平成 20 年 4 月～12 月

名前	実態	経験が少なく興味、関心をもつことが少ない。また社会と自分とのつながりを把握できていないことが多い。学習に対して意欲が高まると自分で疑問をもって取り組むことができる。解決するための手段が分かれば、自分で工夫しながら解決することができる。情報を整理して分析し、自分の考えをまとめるまでに少し時間がかかる。		
学習内容		観点別のつきたい力	支援	評価
鳥養のエコをみつけよう オリエンテーション 養護学校のエコを見つけよう	○3	今年度のいきいきタイムのテーマを設定する。	判断しやすいようにいくつかの題材モデルを提示したり、今年度の内容を少し体験したりするなど情報を提供する。	学校探検をしたことで昨年とはちがう環境というテーマに対してのイメージをもち、テーマ決定した。
	○1	学校のエコの取り組みに対して疑問をもって、教師のアドバイスをうけながら、課題を設定する。	学校探検を設定し、自分の目で確かめられる場をつくる。疑問を持ちやすいように情報(学習展開などのアドバイス)提供する。	学校での風力発電太陽光発電がどのように行われ、活用されているのかに興味を持った。個人の研究内容を教師のアドバイスで設定した。
マップにまとめよう○1	○2	調べたことを図に示し、見易さを考えみんなに提案する。	図を2つ示し、見比べられるようにする。イメージしやすいように提案したことを図に示す。	図を見比べ、パンフレットをイメージして改善案を提案した。
調べよう○1 個人研究をすすめる	○1	疑問に対してどのように解決するのかを教師と一緒に考え課題を解決する。	手段、方法をアドバイスし、実践はなるべく1人で取り組めるようにする。	
	○2	ワードやパワーポイントを活用してプレゼンテーションを作成する。	どのソフトを活用するのか、分かりやすい表示の仕方をアドバイスする。	
中間発表会○1○2	○6	事務室や他の教員などにインタビューしながら課題を解決する。	誰に、何を、どのように聞くのかを事前に確認する。	
調べよう○2 個人研究をまとめる	○2	相手にわかりやすく伝える。	発表の手順表を作成する。 よりよくするにはという視点でアドバイスする。	
マップにまとめよう○2	○2 ○4	アドバイスを参考にまとめなおす。	イメージしやすいように、「何を」「どう」まとめなおせばわかりやすいのかを伝える。教師や友達がアドバイスできる場を設定する。	
発表会にむけての練習	○6	課題解決むけてアンケート調査をする。	アンケートのモデルを何個か提示する。一緒に案を考える。	
学習発表会	○2			
鳥取のエコを見つけよう オリエンテーション	○6			
エコプロに会いに行こう	○2			
鳥養エコプロジェクト				
まとめ				